

Fujitsu Software

システムウォーカー

Systemwalker

セントリック マネージャー

Centric Manager V17.0

ご紹介

2025年9月

富士通株式会社

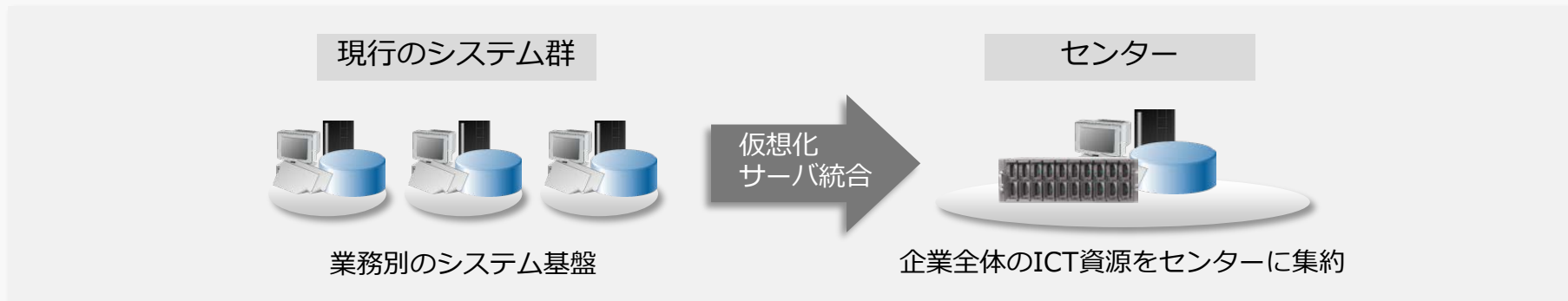


- 仮想化・サーバ統合で求められる統合監視
- Systemwalker Centric Managerの特長
- サポートの優位性
- システム構成

仮想化・サーバ統合で求められる統合監視

仮想化によるサーバ統合が進展

- コスト削減を背景に、企業全体のICT資源をセンターに集約し、仮想化による基盤統合への動きが加速



仮想化・サーバ統合によるコスト要因

- 数の要因 ⇒ 機器(サーバ、PC、ネットワーク機器)の急激な増加
- 種類の要因 ⇒ 物理サーバ、仮想サーバ、ネットワーク機器の混在

■ 数の要因

センターの機器が急激に増加する

大量イベントのチェックに時間がかかる



大量のエラーイベント

■ 種類の要因

監視すべきICT機器は
仮想サーバだけではない

仮想環境と物理環境の個別管理は
コストも手間もかかる



センターのICTインフラが大規模・複雑化することは、管理工数のコスト増に繋がる

■ 仮想化・サーバ統合により発生した運用の課題

数の課題

大量のエラーイベントからトラブルの優先度を判断して迅速に解決したい

種類の課題

物理と仮想が混在した環境をシームレスに監視したい



センター機器の「数」「種類」に対応するには、
システム全体の一元管理による運用の効率化が必要

■ 変化する仮想化・サーバ統合環境でのシステム全体の見える化を実現

数の課題を解決

- トラブルの状況や傾向が見える化
- 障害箇所、影響範囲が見える化
- 少ないオペレーションでトラブル原因を特定
- 大量イベントから重要イベントをフィルタリング

種類の課題を解決

- 物理サーバ、仮想サーバ、ネットワーク、ストレージ、業務の関係と稼働状況が見える化

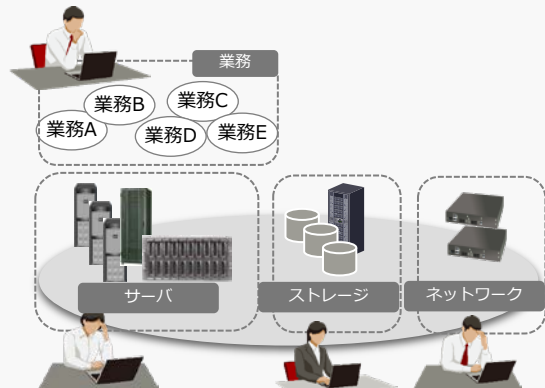


システム全体の一元監視

■ 監視対象ごとに監視

業務・サーバ・ストレージ・ネットワークを監視対象ごとの担当者が別々の監視画面で管理

- システム全体の状況が見えない
- 障害箇所や影響範囲がわからない

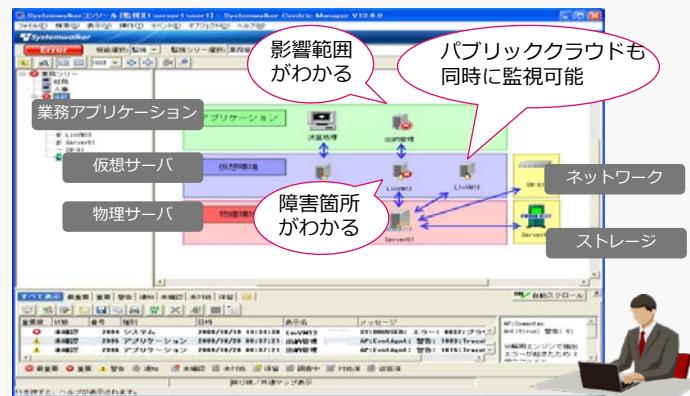


一元監視

■ システム全体をまとめて監視

物理サーバ/仮想サーバ・ネットワーク・ストレージ・業務アプリケーションを一つの監視画面で管理

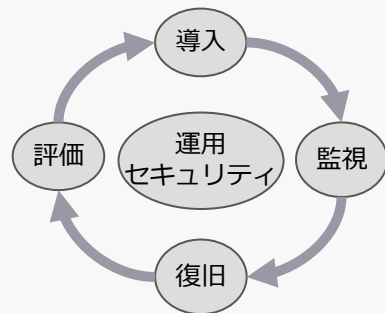
- システムの全体の稼働状況を一面で確認
- 障害箇所、影響範囲が一目でわかる



障害箇所や影響範囲が一目でわかり迅速なトラブル対応ができる

Systemwalker Centric Managerの特長

システム運用のライフサイクルに対応した管理機能



Global Enterprise Edition

Enterprise Edition

Standard Edition

導入

- 簡単導入/セットアップ
- ソフト資源の配付
- ソフトウェア修正管理

復旧

- リモート操作
- リモートコマンド
- 電源投入/切断

監視 ①

- ハイブリッド監視 **New!**
- 稼働状況の監視
- イベントの監視
- 性能監視
- 自動通知

運用セキュリティ ①

- サーバアクセス制御
- ログの記録
- ログの収集・保管
- ログの点検（レポート）

評価

- 運用の評価

New!

V17の新機能です。
機能の詳細は「V17 新機能ご紹介」で説明しています。

監視 ②

- クラスタシステムの監視
- 大規模多階層の監視
- 冗長構成による高信頼化

運用セキュリティ ②

- コンソール操作制御

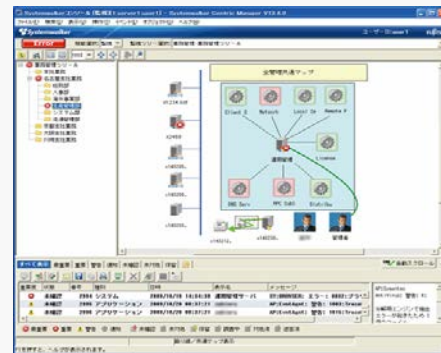
監視 ③

- メインフレームの監視

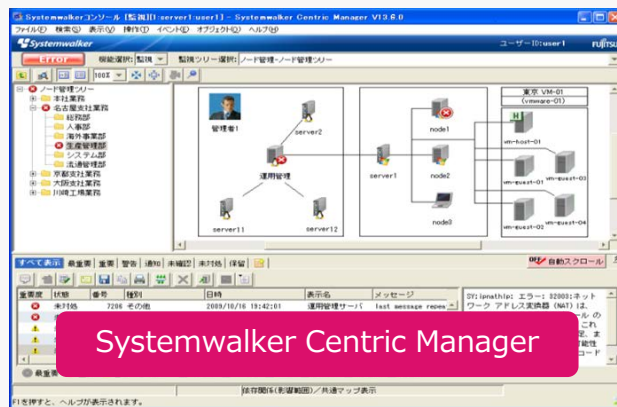
さまざまな環境のシステムを一つのコンソールで監視できる

■ すべてのシステムを1つの画面で監視

- Web GUIにより、サーバ、ネットワーク、ストレージ、アプリケーションの稼働状況を一画面で監視
- 物理サーバと仮想サーバを関連づけて監視
- 管理者の役割に応じた監視メニュー
- メインフレームも監視
- 他社運用管理製品と連携して統合監視（他社連携アダプタを無償提供）
- データセンターの統合監視と、テナント/業務システムの個別監視を両立



一画面ですべての障害が確認できる



Systemwalker Centric Manager



性能管理
Systemwalker
Service Quality Coordinator

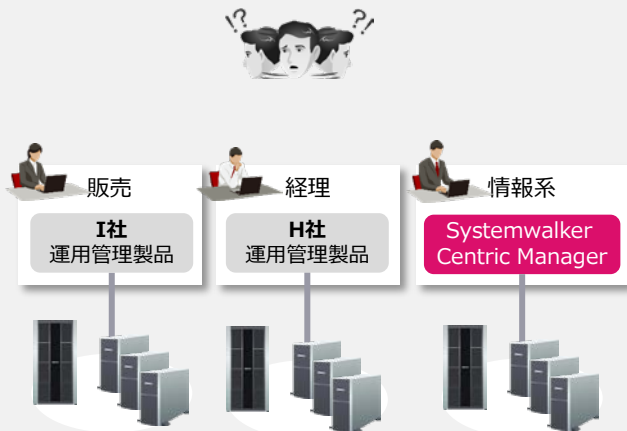


Oracleの監視
Systemwalker for Oracle

他社製品が管理している障害メッセージを一画面で監視できる

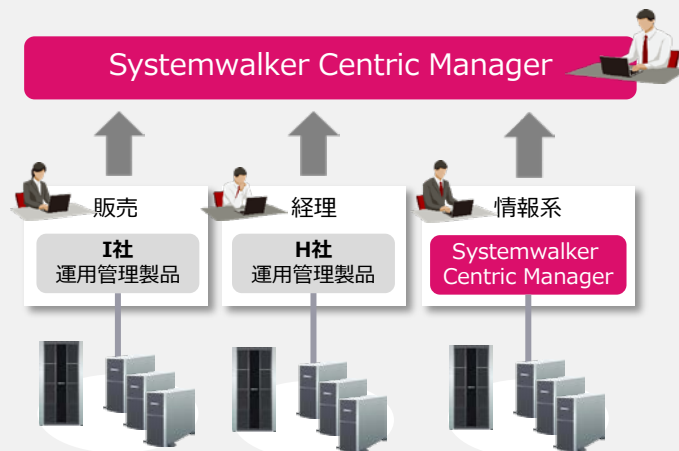
システムごとに運用管理製品が異なり統合できない

- さまざまなベンダーの運用管理製品を使用しているため統合できない



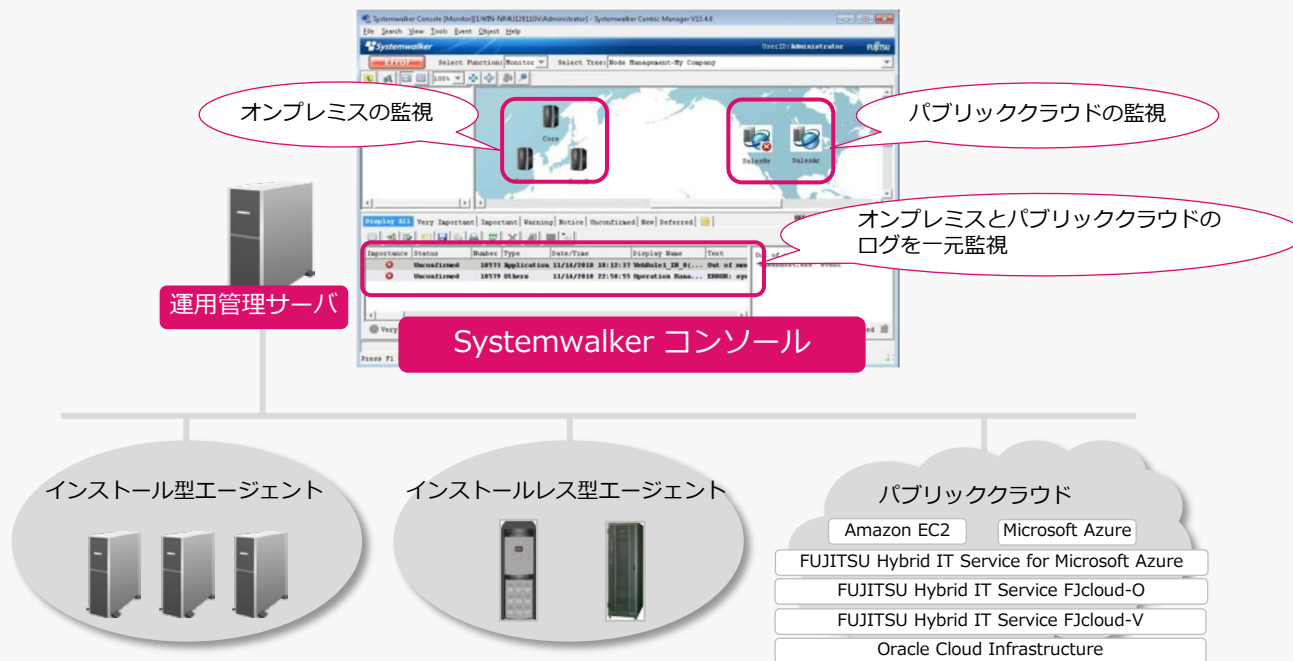
マルチベンダーの監視を統合して運用を統一

- 既存環境にSystemwalker Centric Managerを追加
- さまざまなベンダーの運用管理製品と連携して監視



パブリッククラウドも集中監視

オンプレミスもパブリッククラウドも一つのコンソールで集中監視できる



※ IPv6通信プロトコルをサポートしています。

システム利用部門とシステム管理部門とで監視を分担

■ 統合監視と業務システムの個別監視機能を提供

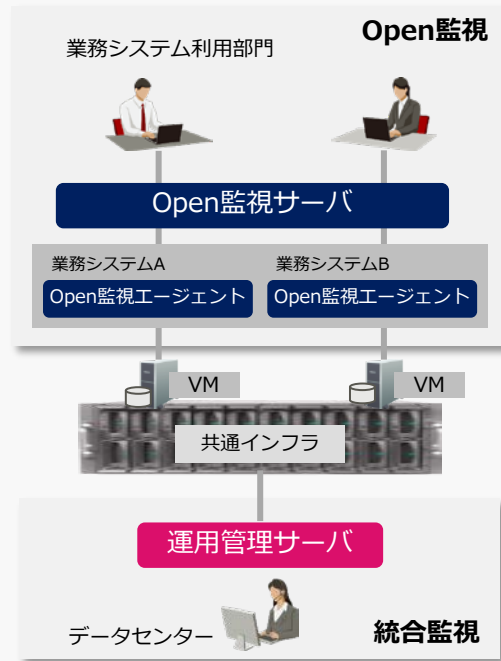
- データセンターから貸し出された仮想マシンを、業務システム利用部門で監視
- 監視設定・監視業務を業務システムに合わせてカスタマイズ可能
- ユーザーと監視対象を関連付けるマルチテナント監視によりオペレーターの作業を効率化
- OSS(※)と共通のオープンなAPI、入出力ファイルのインターフェースを提供
※)対応しているOSSはZabbixです

■ 導入を簡易化

- オール・イン・ワンの製品インストーラとスマートセットアップで簡単に導入
- 独自テンプレートの提供により、業務部門がすぐに監視が行える環境の準備が可能
- 仮想プロビジョニング後に監視を即開始可能

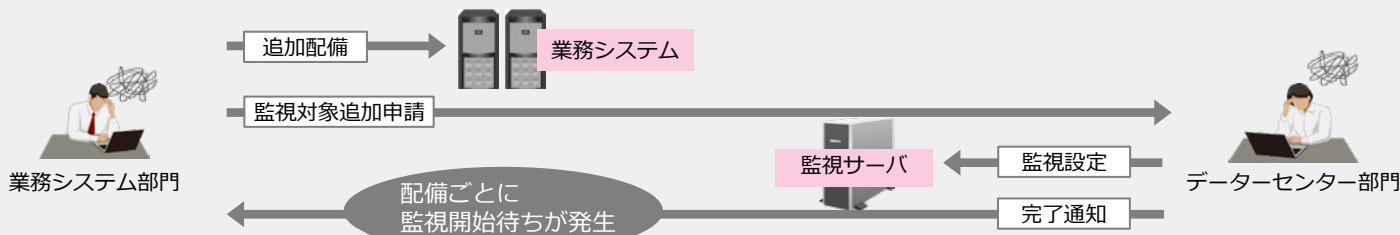
■ Open監視機能と統合監視機能の連携

- Open監視対象の各業務システムから発行されたイベントを、統合監視の監視画面でまとめて監視することで、オペレーターの作業を効率化

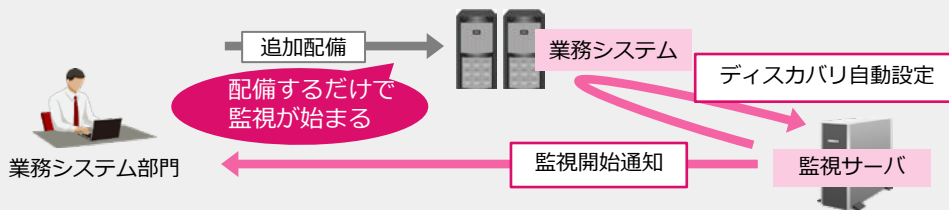


配備された仮想サーバの監視を即座に自動開始できる

【導入前】 仮想サーバを配備するたびに作業・待ちが発生

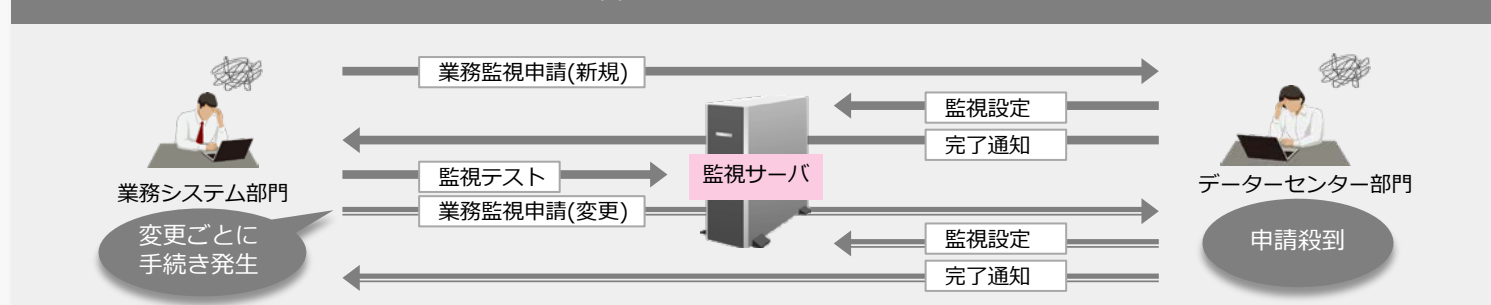


【導入後】 仮想サーバを配備するだけで監視を即座に自動開始

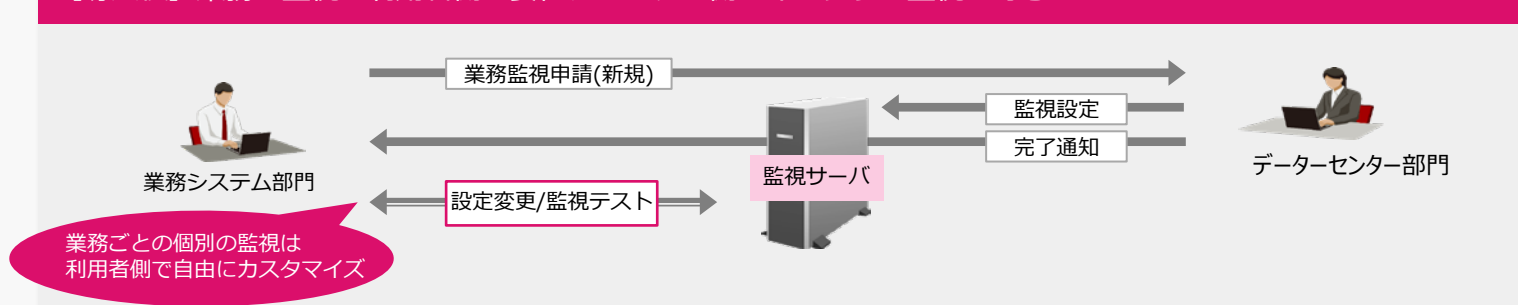


システム利用者が業務システムを個別に監視できる

【導入前】すべての監視をセンター側で一元管理



【導入後】業務の監視を利用者側に委任、センター側はインフラの監視に専念



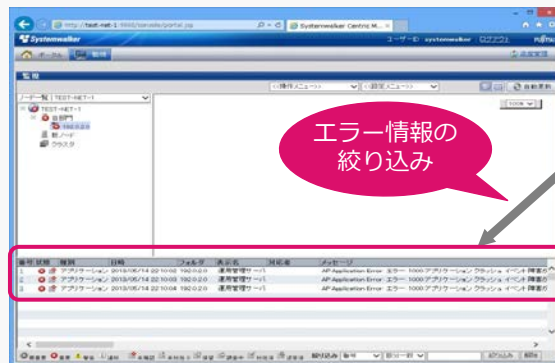
トラブルの優先度を判断し原因を迅速に特定できる

■ Webコンソールでイベント状況を把握

- イベントの発生状況(発生数、期間での発生傾向や機種別の発生傾向など)を一目で把握
- 管理者の役割、担当範囲に応じて表示項目をカスタマイズ可能

■ 少ない手番でエラー内容を把握

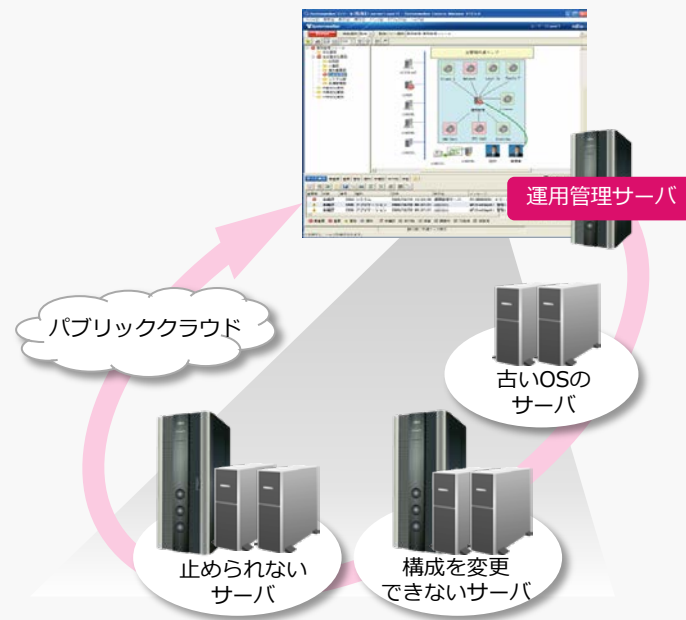
- 類似イベントを集約した通知や、イベントの組み合わせを判断した原因メッセージの通知により、現象の把握や原因の特定が容易
- 1クリックでエラー情報を絞り込み、必要な情報を確認



サーバに影響を与えずに監視できる

■ 監視対象を選ばない統合監視

- 監視対象へのSystemwalker Centric Managerのインストールが不要
- Systemwalker Centric Managerをインストールできないサーバも監視対象にできる
(24H稼働サーバ、構成を変更できないサーバ、古いOSのサーバなど)
- 異なるOSが混在するクロスプラットフォーム環境にも対応
- Systemwalker Centric Managerがインストールされているサーバとインストールされていないサーバが混在する構成にも対応
- パブリッククラウド(※)も、インストールレス方式で監視できる



※) FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-V、Amazon EC2、FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azureなど

24H止まらない監視で、障害イベントを確実に検出できる

■ 故障しても監視を止めない

- 運用管理サーバを二重化してトラブル時も監視を止めずに継続
(最大四重化構成まで可能)
- Systemwalker自身の稼働状況をセルフチェック
- 通信トラブルなどで通知されないイベントは復旧後に自動再送

■ 運用を止めずにバックアップ

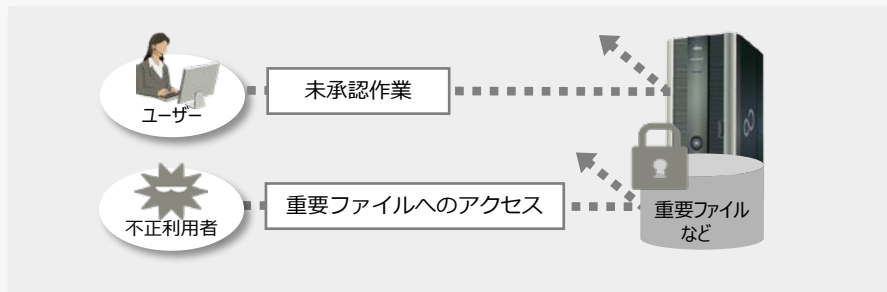
- 運用管理サーバを稼働させたまま、監視環境をバックアップできる



不正な操作や操作ミスによるトラブルを防止できる

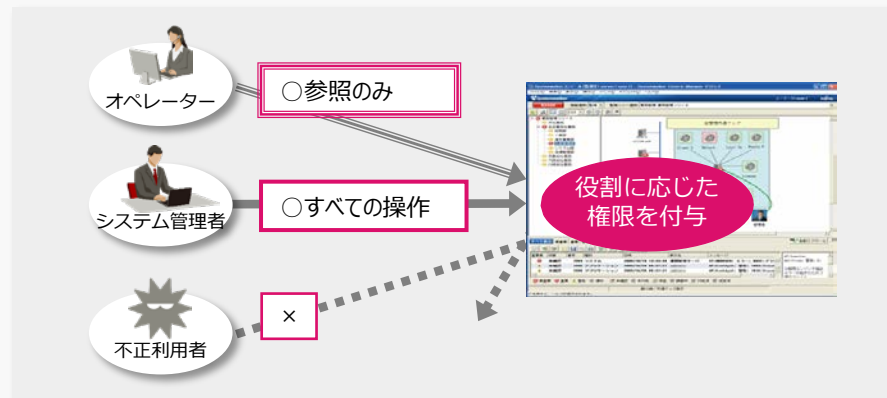
■ サーバのアクセス制御

- ユーザーごとに重要ファイルやプログラムへのアクセスを制限
- ユーザーごとにログインを制限



■ 運用管理コンソールのアクセス制御

- 管理者の役割に応じて、運用管理コンソールで操作できる権限を付与



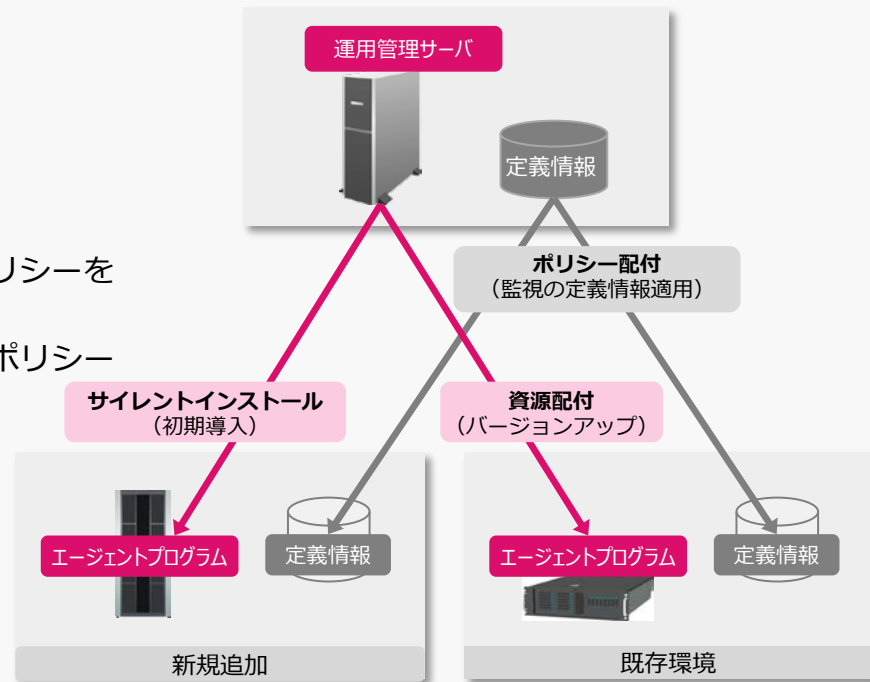
導入や監視定義の設定を効率化できる

■ 簡単導入

- 初期導入はエージェントプログラムと環境定義をサイレントインストール
- バージョンアップは資源配付機能で自動適用

■ 監視定義を一括管理、自動適用

- 監視の定義情報(ポリシー)を運用管理サーバで一元管理
- ポリシー配付機能で、運用管理サーバから監視対象にポリシーを一括適用
- お客様／提供サービス（テナント）ごとの管理者に監視ポリシーの設定権限を与え、監視ポリシーを設定可能（マルチテナント監視）
- 定義内容はGUI画面で簡単確認

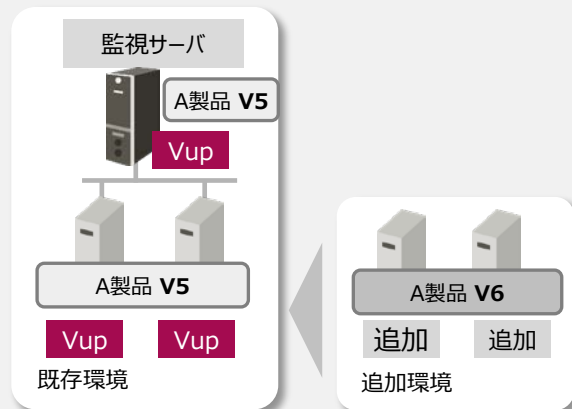


サポートの優位性

システム拡張に伴う全製品のバージョンアップは不要

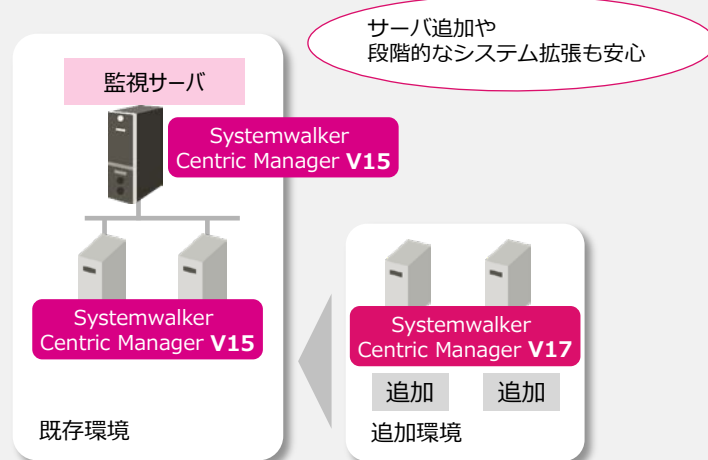
他社の場合

- 新バージョンの製品導入には、既存製品のバージョンアップが必要
- 製品ライセンスの他に、移行のためのSE費用が発生

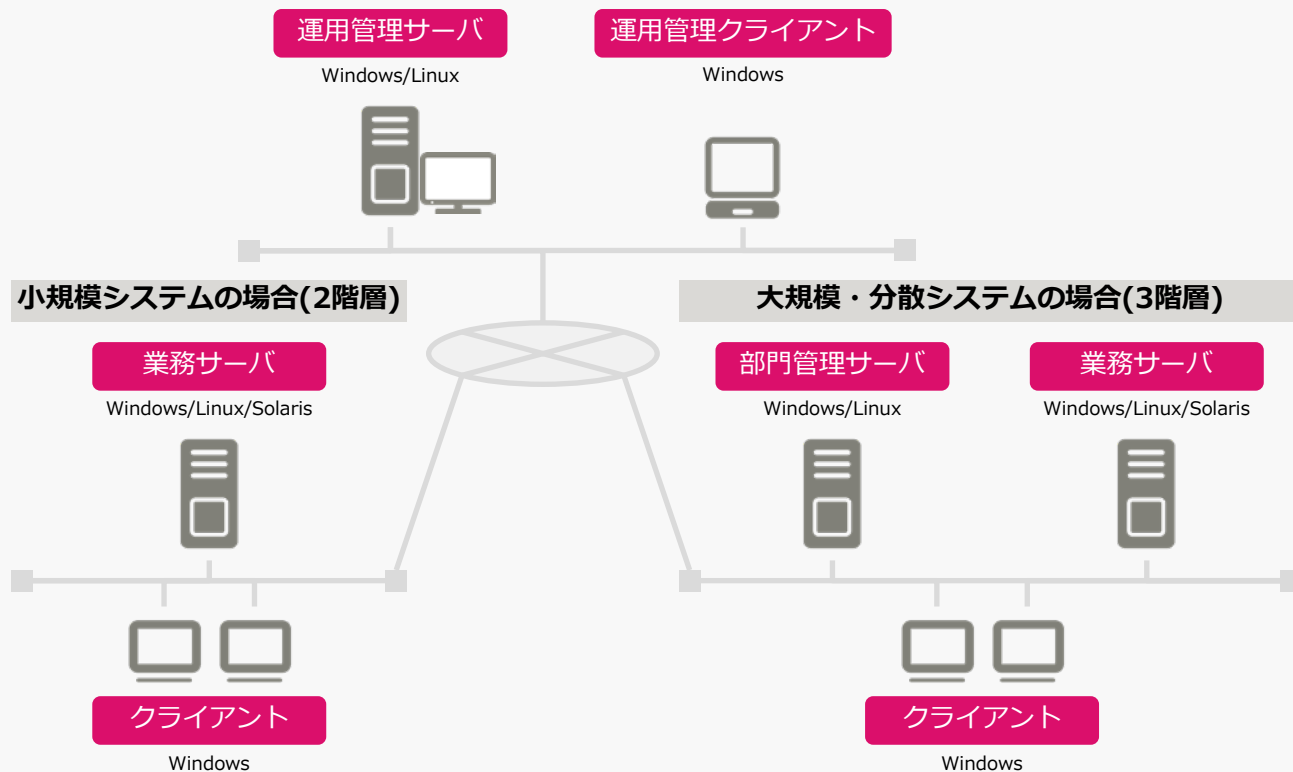


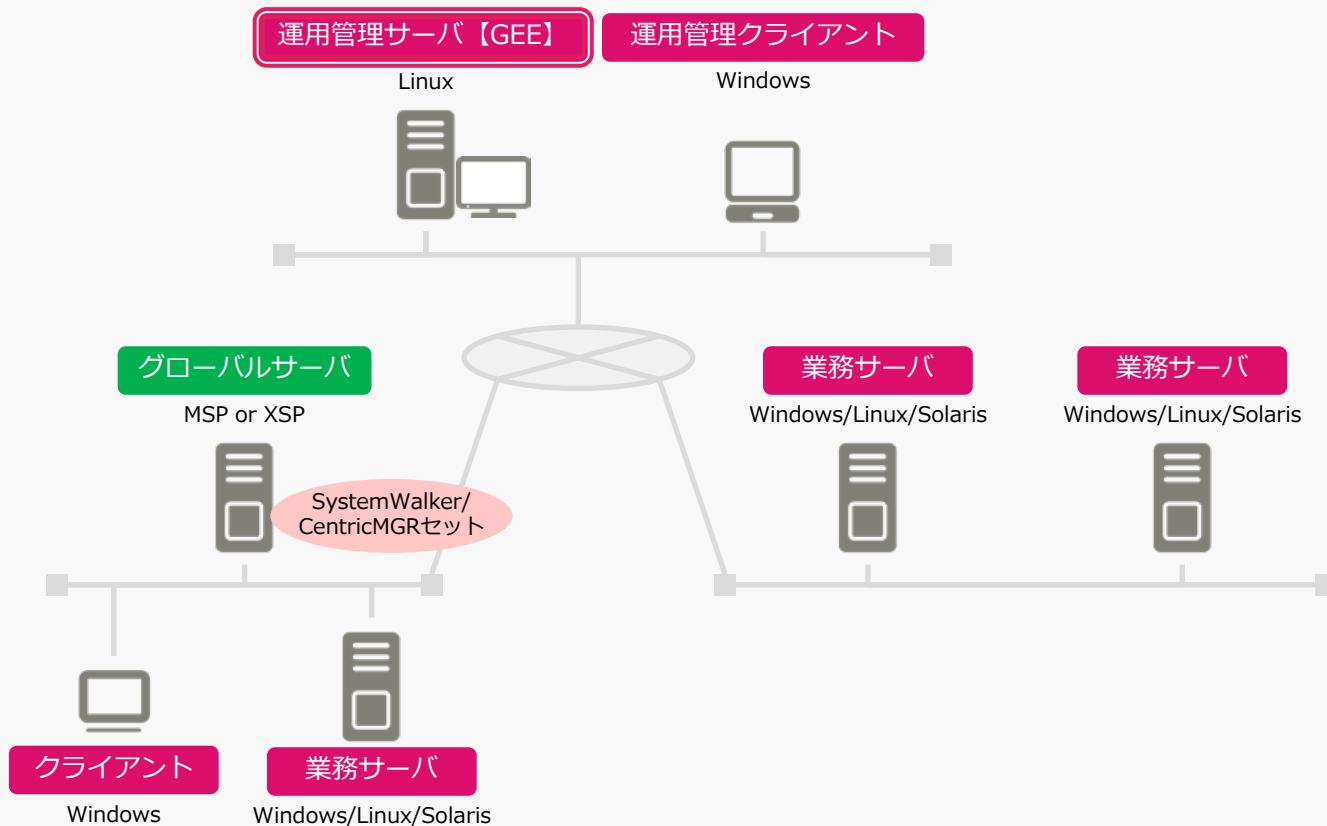
Systemwalker Centric Managerの場合

- 異なったバージョンが混在しても利用可能
- 監視サーバと監視対象サーバのバージョンが異なる場合、古いバージョンの機能範囲で運用可能



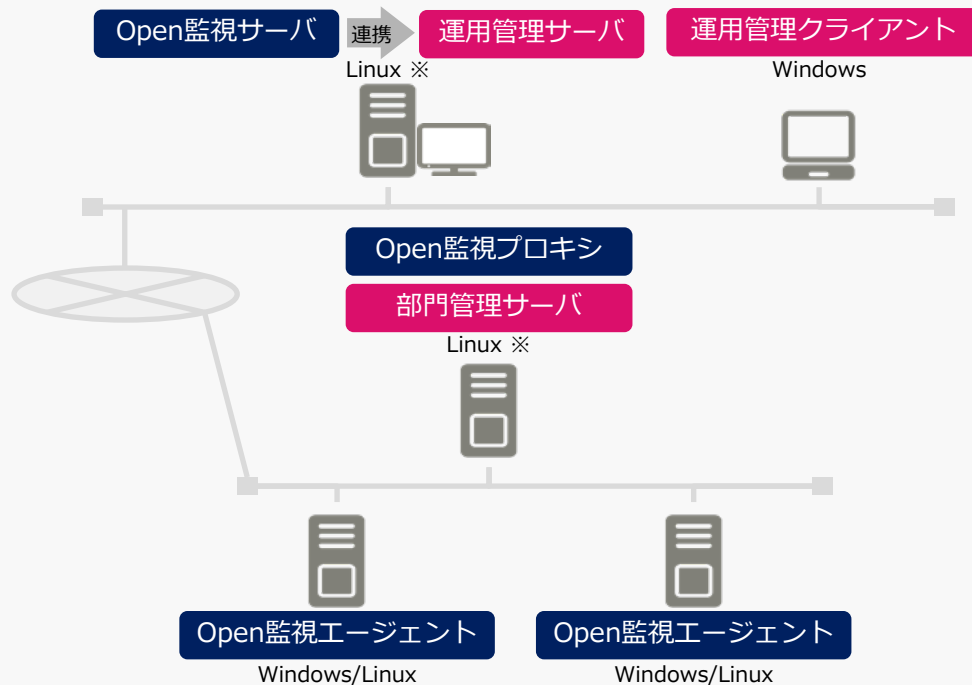
システム構成





Open監視のシステム構成

(統合監視と連携する場合)



※ Open監視サーバ と Open監視プロキシサーバは、Linuxのみ動作可能です。

- 運用管理サーバがLinuxの場合、Open監視サーバは 運用管理サーバと同居が可能です。
- 部門管理サーバがLinuxの場合、Open監視プロキシは 部門管理サーバと同居が可能です。
- Windows上で運用されている運用管理サーバと連携する場合は、運用管理サーバとは別のLinux上に、Open監視サーバと部門管理サーバをインストールします。

- Amazon Web Services、その他のAWS商標は、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。
- Linux(R)は米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Azureまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Oracle(R)、Java、およびOracle Cloudは、オラクルおよびその関連会社の登録商標です。
- Red HatおよびRPMは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.およびその子会社の商標または登録商標です。
- Zabbixはラトビア共和国にあるZabbix LLCの商標です。
- そのほか、本資料に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

